



## 知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004 年に退職。FACEBOOK 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



### シロツメクサ(漢字表記は?)

あらいぐまラスカルの歌に出てくる「シロツメクサ」、漢字ではどう書くのだろうか。「白爪草」と書きそうだが、正しいのは「白詰草」。「ツメ」といえば多くの方は「爪」を連想するのもかもしれないが、由来が分かれば間違えることはない。

「白詰草」の名前は、江戸時代、日本がオランダと貿易を行い、ガラス製品などを輸入していたことに由来する。ガラス製品は壊れやすいので、納める箱の中に「緩衝材」として草を詰めていた。その草が「シロツメクサ」だった。「詰めもの」として使われたから「詰草」と表記するようになったのである。





### ダモクレスの剣(The Sword of Damocles)

古代ギリシャの話である。ダモクレスがシチリアの僭主(非合法に王になった者)ディオニシオスの権力と栄光を羨み、追従の言葉を述べた。すると後日、ダモクレスは僭主から豪華な宴の招待を受けた。宴は贅を極めたものであったが、ふと頭上を見上げると、天井から今にも切れそうな細い糸(馬の尾の毛)で、剣が吊るされていた。僭主ディオニシオスは、ダモクレスの羨んでいる僭主という立場が、いかに命の危険をとまなうものであるかを示したのである。この故事から、「ダモクレスの剣」は、常に戦々恐々としている状況をもたらすものの譬えに用いられるようになった。

このエピソードが日本でよく知られるようになったのは、次のケネディ大統領の1961年の国連演説である。『地球のすべての住人は、いずれこの星が居住に適さなくなってしまう可能性に思いをはせるべきだろう。老若男女あらゆる人が、核という「ダモクレスの剣」の下で暮らしている。世にもか細い糸でつるされたその剣は、事故か誤算か狂気により、いつ切れても不思議はないのだ。』



### 血税

血を搾られるような苦勞をして納める負担の重い税金を「血税」というが、もともとは兵役義務という言葉である。1872年(明治5年)太政官告諭に「西人之を称して血税という。その生血を以つ



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

て国に報ずるの謂なり」とあり、フランス語の「impôt du sang」の直訳である（impôt=税、sang=血）。（太政官告諭にある「西人」は欧州人の意）

現在では徴兵制度がないため、本来の意味は忘れ去られているが「納税の義務」は多くの国民にとって「血税」の印象が強いかもしれない。

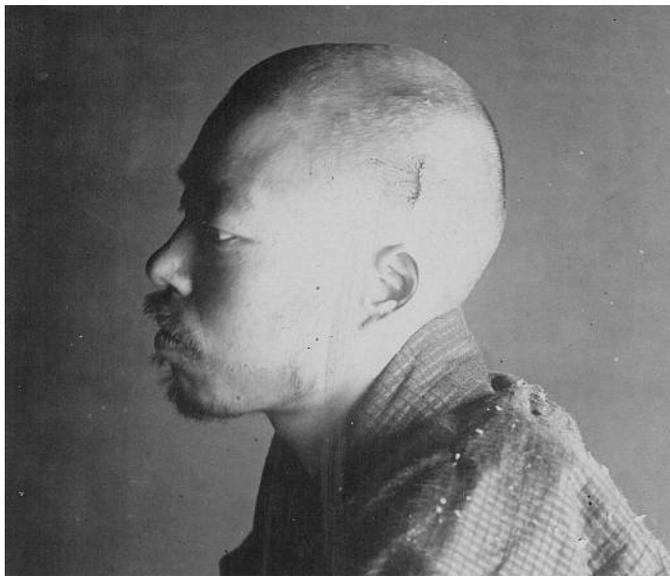
### 月並み

「月並み」は、元々「毎月決まって行うこと」を示す言葉で、そこから和歌や俳句などの毎月の例会を「月並みの会」と言うようになった。

この「月並み」が平凡でつまらないことを意味するようになったのは、俳句を革新した正岡子規が旧態依然としたそれまでの俳句を「月並み俳諧」と批判したことからだ。

俳句の毎月の例会（月並み）は、俗受けをねらったものや言回しの工夫が多く、感動の少ない平凡な作品ばかりとする正岡子規の指摘が現在の意味につながり、ごく平凡なことを意味するようになったのである。

さらに、子規は松尾芭蕉の詩情を高く評価する一方、江戸期の文献を調べ与謝蕪村のように忘れられていた俳人を発掘している。明治 35 年没（満 34 歳）。



### 飛行機の出入り口はなぜ左側か

飛行機には機長を「キャプテン」、客室を「キャビン」、乗員を「クルー」というように、船にちなんだ用語が多い（航空会社の人には飛行機のことを「シップ」と呼んでいる）。これは 100 年ほど前に飛行機が実用化されるに伴い、船の用語を倣ったためだ。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

船の右舷には舵板があるため、岸につけるのに邪魔になってしまう。そのため、船は左舷から接岸して、人の乗り降りや荷物の積み卸しをするのが慣習となった。こうした船の慣習が飛行機に引き継がれ、人の乗り降りは原則として左側のドアを使うようになったのである。

ただ、空港設備や状況に合わせて右側のドアを使用することもまれにある。また、機内の掃除、食事や機内販売品を搭載するときには右側のドア(サービス・ドアという)を使う。